

基本政策 1
「災害に強く安全・安心な阿南」の創生
～強靱で自然と調和するまちに～

まちづくり分野	総合戦略分野
1-1 防災・消防..... 41	まち
1-2 交通安全・防犯.....	
1-3 土地利用.....	
1-4 自然環境・生物多様性.....	
1-5 市街地整備・都市景観.....	
1-6 道路・交通.....	
1-7 循環型社会.....	
1-8 住環境.....	
1-9 上下水道.....	

1-1

防災・消防

ビジョン

市民生活を守る安全・安心のまちづくり

現状と課題



- 近年、南海トラフ巨大地震や線状降水帯などによる集中豪雨による浸水被害、河川の氾濫など自然災害に対する脅威にさらされている中、全ての市民が安全で安心な暮らしを実感できるまちづくりに向けて、多種多様な災害に対応した総合防災体制の確立や減災、火災予防のため、ハード・ソフト両面の対策を行っていく必要があります。
- 日頃から、地域コミュニティにおける防災力を「共助」の理念に基づいて向上させることで、市域全体の防災力向上を図ることが求められています。また、地域と防災機関が連携を図ることと、災害に支援が必要な方への体制を強化する必要があります。
- 地域の中核となる消防団の充実・強化を図るために、消防団員の確保、消防団の組織再編等を進めていく必要があります。
- 市民の防災・減災に対する意識啓発に努めるとともに、阪神・淡路大震災で被害が顕著であった昭和56年以前に建築された既存不適格住宅建物に関する法改正を踏まえ、耐震化等を促進し、南海トラフ巨大地震に備える必要があります。
- 管理不全空家に関する苦情件数は、年々増加の一途をたどっています。管理不全空家の増加は、大規模地震時における救助・救出の妨げや火災延焼等、二次災害を引き起こすため、所有者等に向けて管理義務を周知し、空家の利活用を促すとともに、一定の基準を満たした老朽危険家屋については、計画的に除却支援をしていく必要があります。

基本的な方向性

- 全ての市民が安全で安心な暮らしを実感できるまちづくりに向けて、多種多様な災害に対応した総合防災体制の確立や、減災・火災予防に努めます。また、要配慮者に対する情報伝達や安否確認、避難所における支援等を行い、ハード・ソフト両面から市民を守るための対策を図ります。
- 地域住民との連携を強化し、住民参加型の防災訓練、ワークショップを通して、地域全体の防災意識の向上を図るとともに、避難支援が必要なこども、障がい者、高齢者の避難体制の整備により地域の防災力向上を目指します。
- 防災訓練、各種イベント等を通して市民の防災意識の向上を図るとともに、耐震診断や補強計画、耐震改修工事等に係る経済的負担を軽減することで「災害に強いまちづくり」を実現します。

- 都市の長期的な展望の下、立地適正化計画において、防災指針を作成し安全なまちづくりを推進します。
- 民間事業団体、移住支援団体等と連携して空家の所有者等に対して管理意識の醸成を図るとともに、空家の利活用の促進につなげます。また、老朽化した空家の除却費用の負担軽減に取り組み「市民の安全・安心の確保」に努めます。

重点テーマ・主要な施策

重点テーマⅠ 南海トラフ巨大地震などの大規模災害に対する防災対策の推進

■主要な施策

- ▶緊急避難場所・避難所整備
 - ☞指定避難所（体育館）の空調整備を進めるとともに、災害時協力井戸の活用を推進する。
- ▶総合防災訓練及び避難所開設・運営訓練等の実施
- ▶災害時応援・受援体制の構築
- ▶防災施設の整備・確保と物資・資機材の充実
 - ☞あらゆる避難者に即応できる防災機能設備（避難所用パーティション・エアテント・炊き出しセット等）を整備する。
- ▶県が管理する福井川等の河川整備・改修への支援
- ▶那賀川・桑野川の無堤地区解消、既存堤防強化及び津波対策、上流域における長安ロダム堆砂対策や小見野々ダム再生事業等の推進
- ▶那賀川・桑野川等における「流域治水」の推進（那賀川水系流域治水プロジェクト）
- ▶港湾施設整備・海岸保全整備への支援
- ▶居住誘導区域における防災対策の推進
- ▶治山対策の推進
 - ☞急傾斜地の崩壊による災害から住民の生命、財産を保護し生活基盤の安定を図る。
- ▶住宅の耐震化の推進
 - ☞木造住宅の耐震化工事等に対する補助を拡充する。
- ▶管理不全空家の発生予防
 - ☞空家の利活用を促進するとともに、老朽危険家屋の除却を加速させる。

KPI（重要業績評価指標）

<指標名>

避難所（体育館）の
空調整備率

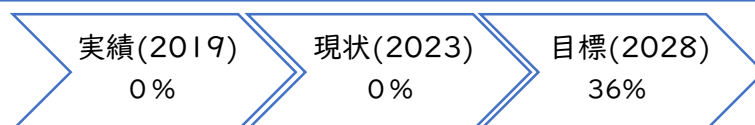
指標の説明

避難所となる体育館への空調設備の整備率

避難所（体育館）への空調整備状況を把握できるよう、この指標を設定

設定の考え方/得られる効果

文部科学省の中長期目標（2035年度95%）を見据え、2028年度の目標設置率を設定
避難所（体育館）におけるQOL向上に寄与



重点テーマ2

復旧・復興対応の事前準備

■主要な施策

▶事前の復旧・復興に向けた取組の推進

☞南海トラフ巨大地震等による被災時には避難所運営や復旧作業に多大な時間と人手を要することから、復興が長期化し、人口流出による地域の衰退等につながらないように、あらかじめ、復興に向けたプロセス等について整理を行う。

KPI（重要業績評価指標）

<指標名>

事前復興計画の策定

実績(2019)

—

現状(2023)

—

目標(2028)

策定

指標の説明

事前復興計画の策定状況

被災後の迅速かつ円滑な復旧・復興につながることから、この指標を設定

設定の考え方/得られる効果

国による南海トラフ巨大地震の新たな被害想定公表などの状況を踏まえつつ、徳島県が策定中の徳島県事前復興計画策定ガイドラインに沿った計画の策定を目指し、目標値を設定
この目標達成により、大規模災害からの復興に関する法律（平成25年法律第55号）に基づいた、本市ならではの復興計画を作成することができ、災害からの復旧・復興が加速することに寄与

重点テーマ3

防災意識の向上及び確実な避難対策の整備

■主要な施策

▶自主防災組織の育成・活動支援

☞住民同士が協力しあい、地域全体の安全と防災力の向上を図る体制を整備する。

▶最新のデジタル技術等を活用した情報伝達手段の研究

☞SNSを利用した避難人数調査や避難所受付など、効率的な避難所運営に取り組む。

▶民間ホテル等との協定の拡充及び避難所の環境整備

☞民間事業者等と連携し、二次避難所の確保や充実、避難所環境の充実を図る。

▶災害時避難行動要支援者名簿の整備及び個別避難計画策定の推進

☞避難に支援が必要な高齢者や障がい者等それぞれに応じた避難計画の作成を進める。

▶「防災減災・危機管理アドバイザー（仮称）」制度の創設

☞南海トラフ地震等の大規模災害に備え、防災減災から復興に至るまでの幅広い施策について、専門的な立場から助言等を得る体制を整備する。

▶住民主体による避難所運営

☞避難所運営は住民が立ち上げた運営組織が行い、市はその運営を支援するという枠組を、訓練等を通じて構築し、推進する。

KPI（重要業績評価指標）

<指標名>

個別避難計画の策定割合

実績(2019)

0.5%

現状(2023)

2.2%

目標(2028)

30%

指標の説明

要支援者名簿に掲載されている方のうち、個別避難計画を作成済の方の割合
要支援者の確実な避難につながることからこの指標を設定

設定の考え方/得られる効果

要支援の必要性の高い方（医療ケア児・者等）から優先的に個別避難計画の作成を行うこと
とし、目標値を設定
この目標達成により、災害弱者といわれている要支援者の安全の確保につながり、「誰一人取り
残さない」防災に寄与

重点テーマ4

内水氾濫・外水氾濫対策

■主要な施策

- ▶ 三谷川流域における「流域治水」の推進（打樋川水系流域治水プロジェクト）
- ▶ 市内各所の浸水対策
- ▶ 内水・外水浸水状況の検証と対策
- ▶ 想定最大規模の洪水ハザードマップの整備
- ▶ 排水設備の整備
- ▶ 高潮ハザードマップの整備
- ▶ 準用河川の適正な維持管理

☞ 戎山都市下水路及び長浜都市下水路の函渠未整備箇所の整備推進を図る。

KPI（重要業績評価指標）

<指標名>

都市下水路函渠の整備率

実績(2019)

74.2%

現状(2023)

74.6%

目標(2028)

77.2%

指標の説明

計画延長に対して整備の完了した函渠延長の割合
近年の気候変動の影響により大雨等が頻発し、内水氾濫のリスクが増大しており、早期の水路
整備が重要であることから、この指標を設定

設定の考え方/得られる効果

戎山都市下水路及び長浜都市下水路の函渠未整備箇所の整備推進を目指し、目標値を設定
この目標達成により、家屋の浸水や道路冠水等の内水浸水被害の軽減に寄与

重点テーマ5

消防救急体制の整備強化と地域防災力の強化

■主要な施策

- ▶ 消防用施設及び車両等の充実
- ▶ 消防団組織力の総合的強化
- ▶ 市民に対する応急手当普及活動
- ▶ 県下消防広域化の検討
- ▶ 阿南市火災予防査察規程に基づく査察の強化
- ▶ 救急隊員の技術・知識の高度化
- ▶ 防災教育及び住宅用火災警報器の普及啓発
 - ☞ 訓練やイベント等での防災教育を通じ、住宅用火災警報器の普及啓発や設置促進を図る。
- ▶ 救急要請時における「口頭指導」の充実
 - ☞ 緊急度の高い心肺停止状態を通報内容から把握し、応急手当実施者に対して適切な口頭指導を行い、救命率の向上を図る。
- ▶ 消防活動の迅速かつ持続継続可能な出動態勢の推進
 - ☞ 防火対象施設等の情報をデジタル化し、火災等の発生時の安全で迅速な対応につなげる。

KPI（重要業績評価指標）

<指標名>

救急法・普通救命講習等の実施回数（年間）

実績(2019)

133 回

現状(2023)

94 回

目標(2028)

140 回

指標の説明

阿南市消防応急手当の普及啓発活動実施要綱に基づき講習を実施した回数（年間）
救急車が到着するまでに市民が応急手当を行うことで救命率や社会復帰率の向上につながることから、この指標を設定

設定の考え方/得られる効果

応急手当の知識や技術を広く一般に普及させることを目指し、目標値を設定
この目標達成により、救命率の向上に寄与

関連する個別計画

- 阿南市地域防災計画
- 阿南市津波避難計画
- 河川整備計画（徳島県）
- 那賀川水系河川整備計画（国土交通省四国地方整備局・徳島県）
- 徳島県港湾等整備事業経営戦略（徳島県）
- 阿南市都市計画マスタープラン
- 阿南市業務継続計画
- 阿南市避難行動要支援者避難支援プラン
- 阿南市地域福祉計画
- 阿南市高齢者福祉計画・阿南市介護保険事業計画
- 阿南市公共下水道事業経営戦略
- 阿南市消防計画
- 阿南市消防応急手当の普及啓発活動実施要綱
- 阿南市国土強靱化地域計画
- 阿南市耐震改修促進計画
- 阿南市空家等対策計画
- 阿南市立地適正化計画
- 阿南市国民保護計画
- 阿南市障害者基本計画
- 阿南市水防計画
- 阿南市橋梁長寿命化修繕計画
- 阿南市消防団組織再編計画

1-2

交通安全・防犯

ビジョン

安全で安心して暮らせるまちづくり

現状と課題



- 運転免許保有者や高齢運転者が増えることで、交通事故による死傷者数は依然として高い水準を維持しています。また、運転中にスマートフォン画面を注視する「ながら運転」や高齢運転者の運転操作ミスに起因する交通事故が増加傾向にあり、社会問題となっています。これらに対応するために、市民に対する交通マナーの定着と啓発を推進し、全地域での交通安全に対する意識向上を図る必要があります。さらに、交通安全施設の整備も進める必要があります。
- 少子高齢化や核家族化の進行により、地域在住の高齢者や単身者が増加、地域での見守り体制の重要性が増しています。また、コミュニティ意識の希薄化による地域の犯罪抑止力の低下が問題となっています。この状況を鑑み、市民の防犯意識の更なる高揚と防犯・地域安全体制の強化を図るとともに、全ての市民が安全で安心して暮らせるまちづくりを進めていく必要があります。
- 青少年健全育成センターに寄せられる不審者情報は年度毎に増減があるものの、近年慢性的に発生しています。また、発生時間帯が児童・生徒の下校時間帯に集中しているため、青少年が安全で安心して暮らせる環境づくりを進める必要があります。
- 消費社会の複雑化により、消費者生活における被害は更に複雑で多様化しています。特に、オンラインショッピングや新たな決済サービスが増えたことで、新種の詐欺被害が増加しています。これらの被害を防止するため、消費生活相談の充実や消費者教育・啓発の推進に努め、自立する消費者の育成を進めています。

基本的な方向性

- 交通安全意識や暴力追放・防犯意識の高揚、健全育成パトロール活動の強化、不審者情報の収集と発信の取組、消費生活における被害防止に努め、市民の誰もが安全で安心して暮らせるまちづくりを推進します。

重点テーマ・主要な施策

重点テーマⅠ

交通安全意識の高揚及び交通安全施設の整備

■主要な施策

▶交通安全活動の推進

☞市民に対する交通安全教育の推進、関係機関と連携した交通安全活動や広報等の取組を推進する。

▶交通安全施設の整備及び維持補修の推進

☞市道にカーブミラーや転落防止策等の交通安全施設を整備し、事故を未然に防止する。

K P I（重要業績評価指標）

<指標名>

交通事故による死者数

実績(2019)

7人

現状(2023)

2人

目標(2028)

0人

指標の説明

阿南市域発生年間交通事故死者数（徳島県警察発表数）
最も悲惨な交通事故の結果であることから、この指標を選定

設定の考え方/得られる効果

悲惨な交通死亡事故撲滅を目指し、目標値を設定
この目標達成により、安全・円滑な道路交通に寄与

重点テーマⅡ

防犯意識の高揚及び防犯環境の整備

■主要な施策

▶暴力排除・防犯活動の推進

▶防犯環境の整備

☞防犯活動推進事業に対する助成や防犯に関する広報、防犯施設の整備などを行う。

KPI（重要業績評価指標）

<指標名>

刑法犯罪認知件数

実績(2019)

220 件

現状(2023)

170 件

目標(2028)

150 件

指標の説明

阿南市域発生の年間犯罪認知件数（徳島県警察発表数）

治安のパロメーターともいわれる刑法犯認知件数であり、治安情勢を最も端的に表していることから、この指標を選定

設定の考え方/得られる効果

市民の不安に直結する犯罪を更に減少させることを目指し、目標値を設定

この目標達成により、安全で安心して暮らせるまちづくりに寄与

重点テーマ3

青少年を見守る安全・安心な環境づくりの推進

■主要な施策

▶ 計画的・継続的かつ柔軟な健全育成パトロールの実施

☞ パトロール車による補導活動や不審者対応等の巡視を行う。

KPI（重要業績評価指標）

<指標名>

特別パトロールの実施回数
（年間）

実績(2019)

－

現状(2023)

20 回

目標(2028)

40 回

指標の説明

常時実施しているパトロール以外の巡視回数（年間）

常時実施しているパトロール以外のパトロール実施回数により効果の検証が行えることから、この指標を選定

設定の考え方/得られる効果

柔軟なパトロール活動を行うため目標値を設定

この目標達成により、継続的に柔軟な健全育成パトロールを実施し、青少年の安全・安心な環境づくりに寄与

重点テーマ4

消費生活相談体制の充実

■主要な施策

▶消費者教育・啓発の推進

☞啓発講座の開催やパンフレットの配布を通し、自立する消費者を育成する。

▶消費生活相談体制の充実

☞阿南市消費生活センターの周知や相談体制の充実を図る。

KPI（重要業績評価指標）

<指標名>

消費者啓発講座等の参加
延べ人数

実績(2019)

—

現状(2023)

388人

目標(2028)

400人

指標の説明

消費者啓発講演会等に参加した市民の延べ人数

講演等の参加者が、消費者被害の知識や情報を修得・収集できることから、この指標を選定

設定の考え方/得られる効果

社会情勢の変化に対応する「自立した消費者」を育成し、消費者被害の減少を目指して目標値を設定

この目標達成により、消費者被害の未然の防止や被害の軽減に寄与

関連する個別計画

- 阿南市交通安全計画
- 阿南市教育振興基本計画
- 阿南市再犯防止推進計画
- 阿南市高齢者福祉計画・阿南市介護保険事業計画

1-3

土地利用

ビジョン

自然環境と都市機能の調和のとれた暮らしやすいまちづくり

現状と課題



- 近年における社会情勢の変化等により財政状況が厳しさを増すことが推測される中、市街地が拡散し、人口密度の低い市街地が形成されると、市民一人当たりの行政コストが増大し、都市経営が厳しくなることが予想されます。
- 津波、洪水、土砂災害等の自然災害に備えた安全な土地利用を行う必要があります。

基本的な方向性

- 本市の自然、社会、経済及び文化の実情に配慮し、健康で文化的な生活環境の確保と市土の均衡ある発展を図るとともに、人口減少、高齢社会の進行を踏まえ、公共交通を軸とした集約型の都市圏を目指して土地利用の規制や誘導を図り、人口が減少しても将来にわたって誰もが安心して暮らし続けられる災害に強いまちづくりを目指します。

重点テーマ・主要な施策

重点テーマⅠ

集住型のコミュニティづくりの推進

■主要な施策

▶多極ネットワーク型コンパクトシティの推進

- ☞立地適正化計画に基づき都市機能や居住を誘導し、多極ネットワーク型コンパクトシティを推進する。

KPI（重要業績評価指標）

<指標名>

都市機能誘導の方針に基づく
誘導施設の建築数（累計）

実績(2019)

2件/年

現状(2023)

0件/年

目標(2028)

4件

指標の説明

都市機能誘導区域内への誘導施設の建築数(2025年からの累計)
市内6箇所の拠点及び郊外部含めた市域全体の生活サービスを確保し、集住型のコンパクトシティを推進するため、この指標を選定

設定の考え方/得られる効果

人口減少が進む中で、都市機能の集約及び居住を誘導し、現状の水準を保つことを目指し、目標値を設定
この目標達成により、市民一人当たりの行政コストの増大を防ぎ、よりきめ細やかな行政運営に寄与

関連する個別計画

- 国土利用計画 阿南市計画
- 阿南市立地適正化計画

- 阿南市都市計画マスタープラン

1-4

自然環境・生物多様性

ビジョン

豊かな自然環境と調和する持続可能なまちづくり

現状と課題



- 本市は、令和5（2023）年に「阿南市地球温暖化対策実行計画」を定め、2050年カーボンニュートラルの実現に向け、市民、事業者等と連携して、温室効果ガスの排出量削減に取り組んでいます。地球規模で気候変動の影響が顕在化する中、より一層の省エネルギーの促進、再生可能エネルギーの導入拡大など、脱炭素社会の実現に向けた施策の着実な推進が求められています。
- 本市では、市民や事業者、行政などが協働して、生物多様性の保全や海洋ごみ対策など、環境に配慮した活動に取り組んでいます。生物多様性の損失や海洋環境汚染が深刻化する中、私たち一人一人のライフスタイルや事業活動を環境にやさしいものへと転換し、日常的に環境に配慮した活動が実践できるよう促進することが重要です。
- 今日の環境問題は、社会や経済のさまざまな課題と要因が複雑に関係しており、行政だけで解決することは難しく、市民や企業等の多様な主体による活動や協働の取組、それを支える人づくりが不可欠です。社会・経済的課題の解決に資する効果をもたらすような、分野横断的な環境施策の展開を図ることが重要です。

基本的な方向性

- 「阿南市環境基本条例」「阿南市環境基本計画」などにに基づき、2050年カーボンニュートラルの実現や生物多様性の損失、海洋汚染といった地球規模の環境問題の解決に向け、環境にやさしいライフスタイルへの転換や環境に配慮した事業活動を促進します。
- 本市の豊かな自然環境を次世代に引き継ぐため、あらゆる主体と連携して自然環境の保全と活用を促進し、環境負荷の少ない持続的発展が可能な自然と調和したまちづくりを目指します。

重点テーマ・主要な施策

重点テーマⅠ

環境施策の総合的推進

■主要な施策

▶環境総合調査等の実施

☞大気汚染物質等の常時監視や水質汚濁などに関する調査を行う。

▶環境教育・協働取組の促進

☞持続可能な社会の実現に向けた人づくり・人の輪づくりを推進し、多様な主体の行動変容と協働を促進する。

▶海岸漂着物等対策の推進

☞漁場の環境や生産力の回復を図るため海洋ごみ対策を実施し、海面環境保全を推進する。

KPI（重要業績評価指標）

<指標名>

海岸漂着物等処分量（年間）

実績(2019)

—

現状(2023)

40トン

目標(2028)

25トン

指標の説明

とくしま海岸漂着物等地域対策推進事業における実績

海洋ごみの減少により海面環境保全の推進につながることから、この指標を選定

設定の考え方/得られる効果

海洋ごみの減少により海面環境保全の推進を目指し、目標値を設定

この目標達成により、漁場の環境や生産力の改善に寄与

重点テーマ2

脱炭素社会の実現

■主要な施策

- ▶ 省エネルギーの推進と再生可能エネルギーの導入拡大
- ▶ 市民・事業者の環境に配慮した活動の促進
 - ☞ 市民の意識向上と環境にやさしいライフスタイルへの転換を促すとともに、環境に配慮した事業活動を促進する。
- ▶ 森林・海洋植物再生の促進
 - ☞ 森林及び海洋植物の再生を促進し、CO₂吸収源の拡大を図る。
- ▶ 森林整備におけるJクレジットの創出
 - ☞ 本市ととくしま森林バンクが共同で森林整備を行い、Jクレジット制度としてのCO₂吸収量を創出する。
- ▶ 市民や事業者へのカーボンニュートラルにつながる行動の普及・啓発

KPI（重要業績評価指標）

<指標名>

温室効果ガス排出量削減率

実績(2019)

▲14.2%

現状(2021)

▲13.7%

目標(2028)

▲44.1%

指標の説明

市内で排出される温室効果ガスの排出量の削減率（2013年度が基準年度）
区域施策編において2050年度カーボンニュートラル及び2030年度中間目標を掲げていることから、この指標を選定

設定の考え方/得られる効果

2030年度中間目標を対基準年度比▲50%と設定していることから、基準年度からの期間により按分し、目標値を設定
この目標達成により、2050年カーボンニュートラル達成に向けた中間目標達成を契機とした更なる取組意識の向上に寄与

重点テーマ3

自然再興

■主要な施策

▶生物多様性保全と持続可能な利用の推進

☞ネイチャー・ポジティブの実現に向け、生態系の回復や生物多様性保全・利活用に取り組を進める。

KPI（重要業績評価指標）

<指標名>

暮らしの中で生物多様性
保全に配慮した行動をし
ている市民の割合

実績(2019)

—

現状(2023)

—

目標(2028)

50%以上

指標の説明

目標達成に向けて必要と思われる行動変容の度合い

生物多様性の損失は、静かなる有事であり、私たちは暮らしの中で関心を高め、自然再興に向け、行動変容につなげていく必要があるため、この指標を設定

設定の考え方/得られる効果

今後の取組により達成したい目標値として設定

この目標達成により、環境配慮型ライフスタイルへの貢献に寄与

関連する個別計画

●阿南市環境基本計画

●阿南市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）

●阿南市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）

●生物多様性あなん戦略

●阿南市森林整備計画

1-5

市街地整備・都市景観

ビジョン

人が集う個性的で魅力あるまちづくり



現状と課題

- 郊外での大型店舗の進出や車社会の進展により、中心市街地の空洞化が進み、空き家・空き店舗の増加や、公共施設の老朽化等の課題が深刻化しています。
- 阿南駅周辺においては、市民会館と阿南図書館が閉館したことから、まちのにぎわい創出と市民が集い活動する場としての機能を備えた新たな中央図書館の整備が期待されています。

基本的な方向性

- 都市計画マスタープラン及び立地適正化計画に基づき、駅等を中心とする各拠点に多様な都市機能と居住を誘導し、集約型の生活圏の形成を図るとともに、市民との協働による良好な都市景観の形成を図ることで魅力ある市街地形成を推進します。
- 阿南駅周辺の都市拠点においては、駅前広場や骨格道路の整備、公共施設の統合、整理、複合化を検討するとともに、空き店舗や空き家、パブリックスペースを活用したにぎわいづくりを推進します。
- 阿南中央図書館（仮称）は、市民の多様なニーズに応え、交流や学習研究等の活動を支援する複合機能を図書館と一体的に整備することを目指します。

重点テーマ・主要な施策

重点テーマⅠ

パブリックスペースを活用したまちづくりの推進

■主要な施策

▶官民連携による阿南駅前周辺まちづくり

☞阿南駅周辺のパブリックスペースを活用した官民連携によるイベントの実施等により、駅周辺のにぎわいを創出する。

▶阿南中央図書館（仮称）の整備

☞図書館機能と多様な利用者ニーズに応える複合機能を一体的に整備する。

▶空き店舗・空き家の利用促進

☞空き店舗等を活用したチャレンジショップの導入を図る。

KPI（重要業績評価指標）

<指標名>

駅前芝生広場等のパブリックスペースを活用したイベントの年間総来場者数

実績(2019)

—

現状(2023)

16,591人

目標(2028)

18,000人

指標の説明

阿南駅周辺のパブリックスペースを活用したイベントの総来場者数（年間）
駅周辺の人流の増加によりにぎわいが生まれ、まちの活性化につながることから、この指標を設定

設定の考え方/得られる効果

現状の実績を踏まえ、目標値を設定
この目標達成により、にぎわいが生まれ、まちが活性化し、空き店舗等への新規出店に寄与

関連する個別計画

●阿南市都市計画マスタープラン

●阿南駅周辺まちづくり基本計画

●阿南市立新図書館基本計画

●阿南中央図書館（仮称）整備計画

●阿南市立地適正化計画

1-6

道路・交通

ビジョン

快適な道路交通環境の整備による安全・安心なまちづくり



現状と課題

- 大規模自然災害時における避難や復旧支援機能、また平時における地域経済発展の基盤となる機能を併せ持つ「高規格道路」の整備が急務であり、徳島南部自動車道及び阿南安芸自動車道の早期整備を促進する必要があります。
- 南海トラフ巨大地震や津波に備え、避難や復旧・支援道路としての機能を持つ道路整備が必要です。
- 令和6年4月1日現在、市道として管理している路線は2,285路線、総延長約854km、トンネル数3箇所、橋梁数1,027橋で、その管理・保全に努め、整備・修繕に年次計画的に取り組んでいるものの、国の交付金を活用して事業を行っている個別路線について、近年は道路整備に係る交付率が低率化しており、計画どおりの事業進捗が図られていません。
- 安全で快適な道路交通環境、地域のにぎわい創出や災害時における市民の安全・安心の確保に向けて、高規格幹線道路の整備状況を見定めながら、防災機能を有する「道の駅」整備の可能性について研究する必要があります。
- 本市では、人口減少やそれに伴う少子高齢化により、地域公共交通の利用者は減少傾向で推移すると予測されます。一方、高齢者の多くが移動について不便・不安を抱えており、外出先として多い市内の商業施設、病院及び金融機関等への移動手段の確保が求められています。
- 鉄道、バス及びタクシーは、利用者数の減少や深刻な運転手不足等の厳しい経営状況により、減便や廃線等の対応をせざるを得ない状況です。地域公共交通に「乗って残す」当事者意識の醸成が必要で、地域公共交通の持続可能な確保体制の構築が必要です。

基本的な方向性

- 大規模自然災害時における県南地域全体の安全・安心の実現、また、今後の人口減少社会を見据えた県南地域全体の経済発展に必要不可欠である「高規格道路」の早期整備に向けた取組を、周辺自治体や各種団体と連携しながら積極的に推進します。
- 県南の中心都市として、産業力を更に高めるための基盤条件を強化するとともに、安全性・快適性の向上や防犯対策を講じ、市内道路網の整備を計画的に進めます。
- 認定市道の新設や改良工事（拡幅、舗装、側溝整備）を行うことにより、道路の機能性、安全性の向上を図り、快適で暮らしやすいまちづくりに寄与するとともに、トンネルや橋梁においては、5年に1回の頻度で定期点検を実施し、計画的、効率的なストックマネジメントによる将来コストの縮減に努めます。

- 既存の「道の駅公方の郷なかがわ」との関係性を考慮しつつ、周辺の土地利用状況、交通アクセス、災害リスク、採算性など、様々な視点から防災道の駅整備の可能性を研究します。
- 鉄道・バスなど既存の地域公共交通を軸として、特に市周辺部において市民をはじめとする多様な担い手による新たな交通モード導入も視野に入れ、地域住民の移動手段の確保を目指すとともに、地域公共交通の利用促進策に取り組み、路線の維持確保を図ります。

重点テーマ・主要な施策

重点テーマⅠ

新規路線等の整備による交通ネットワークの充実

■主要な施策

- ▶徳島南部自動車道、阿南安芸自動車道の整備促進
- ▶緊急輸送路となる自動車道の整備
 - ☞市道の路面状態の調査や舗装の打ち換え工事を実施し、有事の際の人命救助や生活物資・資機材等として整備する。
- ▶交付金事業を活用した基幹道路の整備
 - ☞国からの交付金等を活用し事業を実施している各路線について、着実な工事進捗により供用することで、通行の安全性と快適性の向上を図る。
- ▶一般国道 55 号阿南道路、(仮称) 東西幹線道路の整備促進
- ▶地域活性化及び防災時の拠点となる新たな防災「道の駅」の研究
 - ☞地域への波及効果、施設の整備や管理運営手法等について、先進事例等を調査研究する。

KPI（重要業績評価指標）

<指標名>

交付金事業による市道整備
の進捗率（延長ベース）

実績(2019)
24%

現状(2023)
47%

目標(2028)
84%

指標の説明

交付金等を活用した市道整備の完成済延長の割合
毎年着実に基幹道路となる工事完成延長を延伸することで、交通ネットワークの充実につながることから、この指標を設定

設定の考え方/得られる効果

各路線の計画延長総計に対して、各路線の工事完成済み累計延長の割合を設定
この目標達成により、歩行者空間の確保や渋滞緩和となり、市民にとって通行の安全性・快適性の向上に寄与

重点テーマ2

市道の安全性・快適性の向上

■主要な施策

- ▶市道の整備・修繕
- ▶市道の適正な管理・保全

KPI（重要業績評価指標）

<指標名>

Ⅰ 巡目橋梁点検結果に基づく
判定区分Ⅲ・Ⅳの橋梁に対す
る着手率

実績(2019)

20%

現状(2023)

51%

目標(2028)

92%

指標の説明

橋梁の修繕事業に着手した割合

措置が必要とされた橋梁の効率的な修繕等につなげるため、将来的に必要となる工事に備えた調査・設計を進めておくことも着実な事業実施につながることから、この指標を設定

設定の考え方/得られる効果

Ⅰ 巡目の定期点検の判定区分Ⅲ（早期措置段階）、Ⅳ（緊急措置段階）の橋梁に対し、修繕等の措置へ着手した橋梁数の割合を設定

この目標達成により、予防保全の観点から計画的な修繕等を進めることで将来にわたる維持管理・更新コストの最小化に寄与

重点テーマ 3

地域公共交通の核となるバス路線及び離島航路の確保・維持

■主要な施策

- ▶乗合タクシーや公共ライドシェア（自家用有償旅客運送）の実証・導入
 - ☞市周辺部において、居住地と交通結節点までを結ぶ新たな交通モードの導入に向けた取組を進める。
- ▶地域公共交通の利用促進策の実施

K P I（重要業績評価指標）

<指標名>

乗合タクシー及び公共ライドシェア（自家用有償旅客運送）の導入地域数（累計）

実績(2019)

0箇所

現状(2023)

1箇所

目標(2028)

3箇所

指標の説明

乗合タクシー及び公共ライドシェア（自家用有償旅客運送）が導入された地域数（累計）公共交通空白地の解消を目指し、この指標を設定

設定の考え方/得られる効果

利便性の高い地域公共交通ネットワーク構築を目指し設定
この目標達成により、地域住民の移動手段の確保に寄与

関連する個別計画

- 阿南市地域公共交通計画

1-7

循環型社会

ビジョン

環境にやさしいまちづくり

現状と課題



- 本市では、持続可能な循環型社会を形成することを目指し、ごみ減量化、リサイクル率の向上等に取り組んでいます。
- 令和5年度のごみの排出量は25,541トンで、令和元年度比で約9.82%減少しており、リサイクル率は19.67%で令和元年度と同率で推移しています。
- 従来の大量生産・大量消費・大量廃棄型のライフスタイル社会から循環共生型社会へと転換をしていくためには、市民一人一人の未来の地域環境を意識した行動が不可欠です。
- 近年、本市のごみ排出量は、やや減少傾向にありますが、リサイクル率はほぼ横ばいで推移していることから、引き続き3Rの取組を推進し、周知・啓発活動を行います。

基本的な方向性

- 持続可能な循環型社会を形成するため、市民や事業者のごみの排出マナーの向上や減量化に対する意識を高めるとともに、より一層のごみの減量化とリサイクル率の向上に努めます。そのため、「阿南市環境基本条例」「阿南市環境基本計画」「阿南市一般廃棄物処理基本計画」に基づき、資源ごみの有効活用と、ごみの適正処理を推進し、市民団体との連携、資源ごみ回収団体の育成、3R運動などを基本とした取組を行います。

重点テーマ・主要な施策

重点テーマⅠ

ごみの発生抑制とリサイクル率の向上

■主要な施策

- ▶ ごみの減量化及び分別排出に対する市民意識の啓発
- ▶ 資源ごみ回収団体やごみ問題に取り組む市民団体の育成
- ▶ ごみ処理施設の適切な運営

KPI（重要業績評価指標）

<指標名>

ごみ排出量（一般廃棄物）
（年間）

実績(2019)

28,322 トン

現状(2023)

25,541 トン

目標(2028)

23,500 トン

指標の説明

1 年間におけるごみ総排出量（一般廃棄物）（年間）
ごみの削減に対する市民意識を深めてもらうため、この指標を設定

設定の考え方/得られる効果

現状から約 8%の削減を目指し、目標値を設定
この目標達成により、ごみの削減に対する市民意識の向上に寄与

<指標名>

リサイクル率
（再生利用量/ごみ排出量）

実績(2019)

19.67%

現状(2023)

19.67%

目標(2028)

22%

指標の説明

1 年間におけるごみ（一般廃棄物）のリサイクル率（資源化率）再生利用量/ごみ排出量
ごみの資源化に対する市民意識を深めてもらうため、この指標を設定

設定の考え方/得られる効果

現状から約 2%の上乗seを目指し、目標値を設定
この目標達成により、ごみの資源化に対する市民意識の向上に寄与

関連する個別計画

- 阿南市環境基本計画
- 阿南市一般廃棄物処理基本計画

1-8

住環境

ビジョン

快適で暮らしやすい住環境を保全・創造するまちづくり

現状と課題



- 本市では、ポイ捨て禁止のまちとして、市民、事業者等が協働して、美化活動に取り組んでいますが、依然、多くのマナー違反が見られます。また、空き地における雑草の繁茂による苦情も増加しており、人口減少・少子高齢化に起因する、身近な生活環境問題への対応が課題となっています。
- 市外への若者の流出が続く中、新婚世帯の快適な住環境の取得を支援することにより、市内での定住を促す必要があります。
- 少子高齢化、核家族化の進行に伴い、高齢者、障がい者、低所得者等で住宅の確保に配慮が必要な方（住宅確保要配慮者）が増加していくと推測されますが、市内の公営住宅等の大半は、昭和40～50年代に建設した建物であり老朽化が進んでいる現状を踏まえ、民間住宅ストックの活用も視野に重層的かつ柔軟な住宅の供給に取り組む必要があります。

基本的な方向性

- 快適な生活環境は、「住みたい」「住み続けたい」場所として選ばれるための基盤になるものです。まちの美化活動等の推進や空き地の適正な管理を促進し、市民の快適な生活環境を確保します。
- 結婚に伴う新生活の経済的負担を軽減するため、住宅取得費の一部を支援することにより、定住の促進や地域における少子化対策を強化し、本市の持続的発展や地域社会の安定につなげます。
- 「阿南市公営住宅等長寿命化計画」に基づき、公営住宅等の維持・管理に努めるとともに、徳島県に登録された、住宅確保要配慮者の入居を拒まない民間賃貸住宅、いわゆる「セーフティネット住宅」の周知を図ります。また、戸建て住宅のリフォームを促進することにより、居住環境の向上、空き家の利活用につなげます。

重点テーマ・主要な施策

重点テーマⅠ

快適な生活環境の保全

■主要な施策

▶ 騒音・振動・悪臭の防止対策の推進

▶ 美化活動の推進

☞ 環境パトロールや監視カメラの設置によりポイ捨て防止への抑止力を高めるとともに、市民等の美化活動を支援する。

▶ 空き地の適正管理の促進

☞ 空き地の適正管理を啓発するとともに、管理不行き届きの空き地への調査及び改善指導を行う。

KPI（重要業績評価指標）

<指標名>

生活環境が快適であると
感じている市民の割合

実績(2019)

—

現状(2023)

—

目標(2028)

90%以上

指標の説明

目標達成に向けて必要と思われる行動変容の度合い

暮らしの中で関心を高め、行動変容につなげていく必要があるため、この指標を設定

設定の考え方/得られる効果

今後の取組により達成したい目標値として設定

この目標達成により、生活環境改善への貢献に寄与

重点テーマ 2

快適な暮らしの支援

■主要な施策

▶新規住宅建設支援

☞新婚世帯を対象に結婚新生活支援事業補助金を交付する。

▶住宅施策の総合的推進

☞健康で文化的な生活を営むに足る住宅の整備・供給を推進する。

KPI（重要業績評価指標）

<指標名>

住宅セーフティネット登録戸数

実績(2019)

0 戸

現状(2023)

762 戸

目標(2028)

800 戸

指標の説明

徳島県に登録している住宅セーフティネットの戸数
住宅確保要配慮者の受け皿を確保するため、この指標を設定

設定の考え方/得られる効果

将来的に、公営住宅等の用途廃止に伴う住宅確保の代替策としてセーフティネット住宅の活用を検討するため、目標値を設定
この目標達成により、人口減少に対応した適切な公営住宅等の保有量を確保するとともに、民間住宅の活用による住居の確保に係る選択肢の増加に寄与

<指標名>

リフォームに係る補助金交付戸数

実績(2019)

536 戸

現状(2023)

871 戸

目標(2028)

1,200 戸

指標の説明

あなんぐらし支援事業補助金（旧住宅リフォーム支援事業補助金）の交付総戸数
戸建て住宅のリフォームを促進し、快適な暮らしの支援を図るため、この指標を設定

設定の考え方/得られる効果

リフォームに係る経済的負担を軽減するとともに戸建て住宅の長寿命化を図るため、目標値を設定
この目標達成により、居住環境の向上、空き家の発生予防、定住促進等が図られ、ひいては、市民の幸福度の向上に寄与

関連する個別計画

- 阿南市環境基本計画
- 阿南市公営住宅等長寿命化計画
- 阿南市空家等対策計画

ビジョン

安全・安心な水ときれいな川を守るまちづくり



9-1 上水道

現状と課題

- 水道事業は、人口減少や節水型機器の普及などによる水需要の減少に伴い料金収入が減少傾向にある一方で、高度経済成長期に建設された水道施設の更新需要の到来により維持・更新費用が増大傾向にあり、将来、安定した事業運営を継続するためには、財源の確保が課題となります。
- 広範囲にわたり多くの施設を有する本市水道事業の維持・更新には、将来的な水需要予測を見極めた長期的な視点により、DX化や脱炭素化などを考慮した施設統廃合やダウンサイジングを推進するとともに、発生が切迫する南海トラフ巨大地震に備えた耐震化が課題となります。また、これら投資的経費には、世代間の負担の公平性の担保も必要となります。
- 水道水は、水道水質基準に適合するものでなければならず、水道法によりこれらを遵守する義務が課されています。また人口減少社会において、施設更新需要の到来や自然災害への備えなど水道事業を取り巻く経営環境が厳しくなる中、将来にわたり安全・安心な水道サービスを持続するためには、水道事業の運営に必要な人材の確保や育成、技術の継承など、水道の基盤強化が必要です。さらに、近年多発化する豪雨など様々な危機事象に対する危機管理体制の構築には、民間企業や地域住民との連携が必要です。これらの課題は、市内において独立した運営を行っている民営水道事業体にも共通するものであり、「安全・安心な水の供給」の持続に向けた連携が必要であると考えています。

基本的な方向性

- 社会経済情勢の変化や、水道事業を取り巻く様々な環境の変化に対応するため、水道事業の中長期的な経営計画である「阿南市水道事業経営戦略」を適宜見直し、随時フォローアップを行うことにより健全経営を継続するとともに、水道料金のあり方を検証し、料金制度の見直しなど必要な措置を行います。
- 地震等災害へのハード対策として、水道インフラの急所施設となる水源地や配水池やこれらをつなぐ送水管などの耐震化を推進します。また、これら耐震化は、施設の統廃合や脱炭素化など水道インフラの将来の在り方を検証したうえで、経営計画の基となる投資・財政計画を考慮した将来にわたり持続性のある事業計画とします。
- 水道水質基準に適合した水道水の供給を継続します。また、危機管理対策マニュアルの適宜見直しや、本市や日本水道協会などが実施する各防災訓練等への参加により、災害対応力の向上

を図るとともに、水道事業を継続するために必要な人材や技術を民間との連携により確保することや、地域との協調による継続性の高い水道システムを構築し、安全・安心な水の安定供給を図り、「安全」「強靱」「持続」を基本理念とした将来に受け継がれる水道事業に取り組みます。

重点テーマ・主要な施策

重点テーマⅠ

災害に対して強靱な水道施設の整備

■主要な施策

- ▶ 収支予測を考慮した長期的視点による施設の維持更新計画の策定
- ▶ 水道施設の耐震化の推進による水道事業の基盤強化

KPI（重要業績評価指標）

<指標名>

基幹管路の耐震管率

実績(2019)

11.5%

現状(2023)

15.7%

目標(2028)

25%

指標の説明

基幹管路の総延長のうち耐震性を有する管路延長の割合

基幹管路の耐震化を推進し強靱な水道を構築するため、この指標を設定

設定の考え方/得られる効果

計画的な耐震化の取組により耐震管率の向上を図ることから、目標値を設定

この目標達成により、地震に強い水道の構築と災害時における被害軽減を図り、水の安定供給に寄与

重点テーマⅡ

水の安定供給と健全経営の維持

■主要な施策

- ▶ 水道事業の健全な経営確保に向けた水道料金など供給規定の見直し
 - ☞ 経営戦略の見直しとフォローアップ行い、健全経営に向けた水道料金制度の検証・見直しを行う。

KPI（重要業績評価指標）

<指標名>

料金回収率

実績(2019)

130.5%

現状(2023)

119.1%

目標(2028)

111.9%

指標の説明

水道料金収入で給水費用をどれだけ回収できているかを示す割合

100%を下回っている場合、給水にかかる費用が料金収入以外に他の収入で賄われていることを意味し、適正な料金収入の確保が求められることから、この指標を設定

設定の考え方/得られる効果

現行料金水準の妥当性を示す数値として、目標値を設定

この目標達成により、料金改定の必要性や健全経営の判断の目安となることに寄与

重点テーマ3

安全・安心な水道水の確保

■主要な施策

- ▶徹底した水質管理による安全・安心な水の供給
- ▶非常時における業務継続体制の構築と住民連携の推進
 - ☞危機管理体制の適宜見直しと防災訓練等による地域住民との連携により災害対応力の向上を図る。
- ▶水道資産の適正な管理体制の構築
 - ☞民間との連携により専門的技術やノウハウを確保し、持続可能な水道運営の構築を図る。

KPI（重要業績評価指標）

<指標名>

水質基準適合率

実績(2019)
100%

現状(2023)
100%

目標(2028)
100%

指標の説明

水道法に基づく水道水質基準に適合した水質検査結果の割合
安全・安心な水を供給するための基準となるため、この指標を設定

設定の考え方/得られる効果

水道原水及び浄水の定期的な水質検査の実施による水質管理の徹底を図ることから、目標値を設定
この目標達成により、水道水質基準を満たす安全・安心でおいしい水を安定供給し、市民生活の向上や社会経済活動の円滑化に寄与

関連する個別計画

- 阿南市新水道ビジョン 2022▶2028
- 阿南市水道事業経営戦略 2022▶2031
- 阿南市水道水質検査計画

9-2 下水道

現状と課題

- 富岡雨水ポンプ場は平成 18 年から、富岡浄化センターは平成 23 年から運転を開始しており、これら下水道施設における機器は設置からの年数が経過することから、施設の老朽化が見込まれます。また、春日野浄化センターは、令和 7 年度から公共下水道として施設の改築等を実施します。今後においては、ストックマネジメント計画や耐水化計画に基づき、施設の計画的な改築・更新及び適切な維持管理を行い、安全で良質な下水道サービスの提供を維持する必要があります。
- 現在、伊島、パストラルゆたか野、西春日野の 3 地区のコミュニティ・プラントを運転管理していますが、将来にわたり、安全で安定的な生活排水処理が維持できるよう、計画的に改築・更新を進める必要があります。また、下水道整備区域外における合併処理浄化槽設置を推進するため、単独処理浄化槽等からの転換などに係る費用に対し補助金を交付しています。
- 羽ノ浦農業集落排水処理施設は、経年劣化による施設の修繕等が増加しています。また人口減少による収入の減少も予想され、計画的な維持管理を行う必要があります。
- し尿処理施設「阿南市クリーンピュア」は、運転開始から 20 年以上が経過していることから、施設の改良・定期的な機器の更新を行っています。今後においても計画的な改良・更新を行い、安心・安全な「し尿処理施設」として維持管理を行う必要があります。

基本的な方向性

- 心地よく住みやすいまちづくりを目指し、公共用水域の水質保全を図るとともに、市民の衛生的で快適な生活環境を整備するため、公共下水道及びコミュニティプラント、集落排水施設、し尿処理施設の適正な維持管理を行います。

重点テーマ・主要な施策

重点テーマⅠ

生活排水の水質向上

■主要な施策

▶ 小型合併浄化槽設置による水質向上

☞ 下水道整備区域外における合併処理浄化槽設置を推進するため、単独処理浄化槽等からの転換などに係る費用に対し補助金を交付する。

KPI（重要業績評価指標）

<指標名>

汚水処理人口普及率

実績(2019)

45.0%

現状(2023)

48.4%

目標(2028)

51.9%

指標の説明

人口に対し、公共下水道、集落排水、コミュニティ・プラント、合併浄化槽等の生活排水処理施設を利用できる人口の割合
合併浄化槽等の生活排水処理施設を利用している割合が増えることは、水質汚濁の防止に繋がることから、この指標を設定

設定の考え方/得られる効果

生活排水による公共用水域の水質汚濁を防止するためことを目指し、目標値を設定
この目標達成により、水質汚濁防止及び汚水処理人口普及率の向上に寄与

重点テーマⅡ

下水道施設・し尿処理施設の計画的な維持管理

■主要な施策

▶ 下水道施設の維持管理（改築・更新）

▶ し尿処理施設の維持管理

▶ 羽ノ浦農業集落排水処理施設の維持管理

▶ コミュニティ・プラントの維持管理

KPI（重要業績評価指標）

<指標名>

施設の耐震化及び耐水化が完了した施設数

実績(2019)

0 施設

現状(2023)

0 施設

目標(2028)

1 施設

指標の説明

耐震化及び耐水化が完了した施設数

災害時においても一定の下水道機能を確保し、下水道施設被害による社会的影響を最小限に抑制するため、富岡浄化センターと春日野浄化センターの耐震化及び耐水化が重要であることから、この指標を設定

設定の考え方/得られる効果

2施設の耐震化及び耐水化が完了することを目指し、目標値を設定

この目標達成により、気候変動の影響や南海トラフ巨大地震等への備えも含め、都市機能の根幹を支える下水道サービスの持続性が高まることに寄与

関連する個別計画

- 阿南市公共下水道事業計画（打樋川処理区・春日野処理区）
- 阿南市公共下水道施設ストックマネジメント計画
- 阿南市公共下水道施設耐水化計画
- 阿南市一般廃棄物処理基本計画
- 辺地に係る公共的施設の総合的な整備に関する財政上の計画